

雨の日こそ園庭へ

當銀 玲子

雨の日は嫌い？

皆さんは、雨の日は好きですか？ 天気には、晴れの日もあれば、曇りの日も雨の日も雪の日もあります。いろいろな日があるから変化があつて面白いです。でも、天気予報で「今日は雨」とわかると、がっかりするのはなぜでしょう。これは多分、予定外の準備をしなくてはならないからではないでしょうか。保育者にとって雨は想定外であることが多いのです。

そういえば私も、日々の指導計画を立てるとき、雨が降ることを考えずに立てることがほとんどでした。梅雨の季節や研究授業などで雨が降りそうな場合は「雨天の場合」という指導案を作成しますが、まず普段ではありえません。ですから、雨の日の指導案は、本当は戸外での活動を取り入れたいのに雨が降っているのです。仕方なく室内だけで過ごす代替案なのです。さすがに、梅雨の季節は、雨を想定した指導案が作られ、保育者は室内遊びを充実させることに力を注ぎます。子どもたちも、その室内環

境の中で、しばらくはそれなりに遊ぶのですが、やはり雨の日が続くムシムシする室内での遊びが続くと、エネルギーをもてあまし始めます。そして、保育者も子どもたちも「雨さえ降っていなければ、戸外で思いっきり遊べるのに……」という思いが湧いてくるのは当然のことです。だから「雨の日は嫌だな」と思うわけです。

雨の日はどこで遊びますか？

ところで、雨が降ったら室内で過ごさなくてはいけないなんて、保育にそんな決まりはあるのでしょうか。何故かそのように思い込んでいる保育者が多くありませんか？ 実は、私もその一人で、少し前までは、雨が降ったら室内で、如何に子どもたちのエネルギーを発散させながら、楽しく過ごすかをいつも考えていました。

ところが、最近になって、私の中の常識が破られました。それは、昨年度、ある幼稚園で数日間研修

生として過ごしたときのことです。そのときの研修のテーマは「園庭環境」ということで、とても天気が気になりました。ところが、不運にも雨続き、その上、台風もきてしまいました。私が朝の打ち合わせで「今日は雨ですね……」と落胆して言うと、担任の先生方は「うちのクラスの○○君たちと○○ちゃんたちは外へ行くでしょう」。別の担任の先生も「うちも○○ちゃんたちと○○君たちも外に出ると思いますよ」と言うので、私は驚きました。「先生、よかつたら幼稚園の長靴を貸してあげますよ」と言われ長靴を手にしたものの、この日は台風がくる前だから、風はそれほど強くはないけれど、雨は勢いよく降っているのです。「こんな雨の日に園庭で遊ぶ子がいるのかしら」と半信半疑の思いで子どもたちを迎えました。

雨の日に園庭で遊ぶ子どもたち！

私の常識の中では、雨の日は休みが多く、まして

や台風が近づいてくるわけですから、「今日はお休みが多いのでは……」と思っていたところ、休む子どもはいません（雨が降って休みたいのは、大人です）。そして、気がつくといつの間にか、園庭に色とりどりのレインコートを着て、長靴を履いて、傘を差して、歩いている子どもたちがいるではありませんか。私もつられて、黄色い大きな長靴を履いて、園庭に出てみました。

雨水のたまっている芝の上は「ビシャツ、ビシャツ」と音がして懐かしい感覚がします。池のところに行くくと水面に落ちる雨粒が模様を描いています。築山の麓の土管の入り口には水たまりができて、洞窟をイメージさせます。傘を閉じて入っていると、奥は水たまりが無く乾いていて、しばらく雨宿りをしながらいろいろな話をしました。それから築山の山頂へ滑らないように気をつけながら登り、山頂に立つと、また強い雨が傘にぶつかり、バチバチ音がします。「キヤーキヤー」言いながら、

山を降り、また土管の中へ……。

子どもたちは「雨が降っているから部屋で遊ぼう」ではなく「雨が降っているから外に行く」の発想をもっていました。

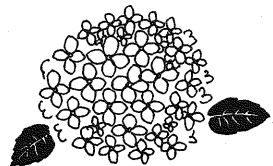
「雨の日の園庭は面白い」とい

うことを、この子どもたちは知っています。

別のチームは、いつも自分たちがサッカーをしている場所へ行きます。そこはとても大きな水たまりで、最初は恐る恐る小さな長靴で入っていくのですが、次第に「海みたいだ」とずんずん深いほうへ進んでいきます。歩くと波が立ち「そんなにジャブジャブしたら長靴に水が入るのに……」なんて心配するのは大人だけです。そのようなことは気にせず、子どもたちはワクワク探検に出掛けるのです。

雨の日ならではの発見！

私は最近、山を歩きます。それも同じところによ



く行くのですが、晴れているときと雨のときとはまったく様子が違います。雨の降り始めは、静かだった林がざわざわします。大雨が降ると、いつもは雪解け水できれいな川が、川幅が広がりカフェ色をした水が、怒涛のごとく流れます。そして道の真ん中を大きなカタツムリがゆっくり移動していきます。同じ道なのに、雨が降るといつもとは違う景色が見られることがわかってから、雨の日も楽しいと思えるようになりました。

この幼稚園の子どもたちも、雨の日の楽しさを知っているでしょう。水たまりができる場所、雨宿りできる場所、雨粒模様が見える場所、つるつる滑る場所など。そういえば、雨の日に一人の男の子が、自分たちの小さな畑に案内してくれました。野菜の葉には雨粒がコロコロしていて、ラディッシュは雨に濡れて赤く色鮮やかに光っていました。そのような畑の様子を数人の子どもたちとおしゃべりしながらしばらく見ていました。

雨上がりの園庭

さて、いろいろな事情があつて、雨が降っているときは園庭に出られないという方でも、がっかりせずに、雨上がりに園庭に出てみてください。雨上がりの園庭でも、楽しい経験はたくさんできます。

雨上がりのジャングルジムや鉄棒などの手すりには、水滴がいっぱい付いています。日が差しているとてもきれいです。そのようなとき、子どもたちはブリンの空き容器などで雨粒を集めます。先生方の中には、滑ると危ないのですぐに拭いてしまう場合もありますが、ちよつと待って、光る雨粒を楽しんでから、子どもたちと一緒に拭くと、よいのではないのでしょうか。

ブランコの下にもよく水たまりができますが、すぐに埋めてしまわずに、様子を見てみてください。子どもたちはブランコに乗るには、どうしたらいいかな？ と考えます。横に回って鎖をつかみ、板を

引き寄せて飛び乗り、立ちごぎをします。そのうち砂場から砂を持ってきて、みんなで水たまり埋めを始めます。埋まったかなと思つて土をたたくと、また水がしみてきます。湿っている土の上で足踏みをしていると地面から水が出てきて、子どもたちと「不思議だね」と言いながら作業をします。

私の所属した幼稚園のいくつかは、水たまりができる子どもたちが「濡れないように」「滑らないように」と、すぐに埋めてしまうか、立ち入り禁止のラインを引いてしまいます。でも梅雨のある日、私は水たまりをそのままにしておきました。子どもたちは予想通り、入っていききました。躊躇いながらもそつと入る子、ビシャビシャ入る子、その様子を園長先生と陰から見っていました。子どもたちには経験できなそうです。そして、都会の子どもたちには経験できない水たまりでの遊びをさせてあげようということになり、水たまりをそのままにしておくことになりました。その後、水たまりは次第に深くな

り、梅雨の間、子どもたちの楽しい遊び場となりました。

雨も大切な保育環境

雨は自然の贈り物です。雨の日に室内に充実した環境を準備して過ごすことは大切なことです。でも「雨の日こそ園庭へ出てみる」ということも、考えてみてはいかがでしょうか。今、子どもたちは、雨が降ると車に乗って濡れずに幼稚園へきます。長靴をもっていない子もいます。もちろん道に水たまりなんてありません。このような生活環境の子どもたちのために、雨が降らなければできない経験を、ぜひ考えてみてはいかがでしょうか。まずは、雨の日子どもたちと園庭に出てみて、一緒にいろいろな発見や体験をして、雨の日の園庭の面白さに気づいてほしいと思います。そして、雨を自然環境として保育に生かしてほしいと思います。

(浦安市教育委員会)